

各教科の授業内容

1. 国語

読むこと・書くこと・聞くこと・話すことを通して、伝え合う力を高め、思考力を伸ばし、心情を豊かにすることをねらいとしている。

1年次必修「国語総合」では、日本語を的確に理解し、適切に表現する力を身に付ける。現代文分野と古典分野（古文・漢文）に分けて学習する。現代文分野では、近代以降の文章を取り扱い、表現の学習も行う。古典分野では、句法や文法事項等の基礎的な内容を押さえながら文章の読解を行う。

2年次必修「現代文B」「古典B」では、日本語の運用能力を高め、広い視野で深く思考する力を培う。「現代文B」は近代以降の論理的及び文学的な文章の読解、鑑賞と表現の実践を行う。「古典B」は、古文と漢文を2：1の割合で行う。1年次に引き続き、句法や文法事項等の基礎的な内容を応用しながら文章の読解を行う。

3年次必修「現代文B」では、2年次に引き続き近代以降の論理的および文学的な文章の読解・鑑賞と、表現の実践を行う。選択科目は、「国語表現」「古典A」「古典B」を設けている。

「国語表現」は、要約文・小論文など、論理的な文章の作成を行う。「古典A」は古文分野と漢文分野に分けて学習し、作品の精緻な理解を行う。「古典B」は、古文・漢文の多読を目的とした授業を行う。

2. 地理・歴史

1年次で「地理A」、2年次で「日本史A」と「世界史A」を必修科目として2単位ずつ設定し、日本と世界の過去と現在を、さまざまな観点から全員が幅広く学ぶ。3年次には「日本史B」、「世界史B」、「地理B」、「地理演習」を選択科目として1～4単位設定し、各自の興味・関心や進路に応じて選択することができる。

・日本史

「日本史A」では、近代以降の日本の歴史を、世界の歴史と関連付けながら学ぶ。史料や統計に基づき、考えることを重視した授業を行う。

「日本史B」では、さまざまな資料や図像をとおして、古代から現代までの日本の歴史を総合的に学ぶ。

・世界史

「世界史A」では、近現代史を中心に、諸資料（諷刺画、文字資料、絵画、映像等）をとおして学習し、歴史的思考力や多角的な見方を身に付けることを目指す。

「世界史B」では、「世界史A」の歴史学習を踏まえ、諸資料をとおして世界の地域や人々の歴史をより深く学習し、歴史的思考力や多角的な見方を身に付ける。

・地理

「地理A」では、世界諸地域の生活・文化や地球規模の社会的課題を学び、地理的認識を養うとともに、地理的技能や見方・考え方を培うことで、国際社会で主体的に生きていく自覚と資質を養う。

「地理B」では、現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を地誌的に、2年次の歴史学習の成果も生かして、より広く深く学ぶ。

「地理演習」では、さまざまな統計資料を読み取り、分析・解釈することをとおして、現代世界の地理的認識を深めていく。

3. 公民

1年次で「現代社会」を必修科目として2単位設定し、3年次で「公民演習」を選択科目として3単位設定して、進路に応じた学習に対応している。

「現代社会」では、現代における政治と経済、その中で人間としての在り方などを学ぶ。さらにそれらに関する諸課題について探究することで、現代社会の基本的な問題について主体

的に考察する力および公正に判断する力を身に付ける。

「公民演習」では、「政治・経済」および「倫理」の要点を復習し、あわせて問題演習を行うことで、希望進路に応じた力を身に付ける。

4. 数学

数学の基礎・基本の充実をはかり、社会、生活のための数学、文化的遺産の一部としての数学、科学を記述する言葉としての数学などに応用できる能力を育むことをめざし、次のような内容を学習する。

「数学Ⅰ・A・Ⅱ」は、数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質、式と証明、高次方程式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数、微分・積分の考えなど高校数学の基本的な内容を扱い、全員が単位を修得するよう各クラスで学習する。なお「数学B」は、数列、ベクトルを扱い、生徒の多様化に対応するために選択科目とし、クラス編成を変えて学習する。

「数学Ⅲ」では平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法、積分法を扱い、主に理系の生徒に対応した選択科目として学習する。

5. 理科

1年次で化学分野、2年次で物理・生物分野を全員が必修で学習する。理科の主要分野を学習することで、理科の主な領域を総合化することができるとともに、その中から興味のあるもの、将来さらに深く学ぶ分野を見つけることができる。

3年次では、地学分野を含めて全て選択授業となり、各自の興味・関心、また将来の進路に合わせて2分野まで選択することができる。

・物理分野

2年次の「物理基礎」では、力学・熱力学・波動・電気の各分野の基礎的な内容を学習する。確実な基礎・基本の理解を目指すとともに、適宜、発展事項も取り扱うことで、理科系志望の生徒に対しても応用力を養うことを目標としている。

3年次の「物理」では、2年次で学習した分野の発展的な内容と、電磁気・原子分野を学習する。本質的な理解を促すために、必要に応じて高度な内容も取り入れながら授業を進めていく。2、3年次ともに実験・演示等を取り入れ、現象を確認し、理解を深めることを目指す。

・化学分野

1年次の「化学基礎」では、21世紀に生きる現代人の基礎教養として、中学での理科の学習をふまえ、化学の理論の基礎をミクロな視点で学習する。

3年次の「化学」では、将来自然科学を専門的に学ぶ生徒のための基礎として、有機化合物、無機物質、高分子化合物などさまざまな物質の性質を中心に化学を学習する。また、物質の構造や反応についてさらに高度な理論も学習する。1・3年次とも、実際の物質に触れつつ理論を確かめるという機会を多くするために、多くの実験を取り入れながら授業を進めていく。

・生物分野

2年次の「生物基礎」では、細胞・遺伝子・体内環境・生態系などの各分野について、主に基礎的な内容を学習する。

3年次の「生物」では、細胞・代謝・生殖・発生・環境応答・生態・進化などの各分野について、生命現象を分子のレベルから扱う分子生物学の視点に踏み込んで学習する。2・3年次ともに実験や実習を重視することで、用語や知識の暗記ではなく本質の理解を促し、最先端の研究内容の出題も目立つ近年の大学入試への対応力も身に付けることを目指す。

・地学分野

地球と宇宙の現在と過去を学習する。

3年次の「地学基礎」では地学の全範囲を系統的に学習するとともに、問題演習を豊富に行い、入学試験にも十分に対応できる学力をつける。なお、1・2年次の「化学基礎」「物理基礎」「生物基礎」において、各分野の関連事項として地学の内容を適宜取り扱う。

6. 保健体育

「保健」と「体育」は必修で、それぞれ独立した科目として履修する。健康を保持増進し、生涯にわたって運動を楽しむ素地をつくることを目的として、授業内容が編成される。

「保健」は1年次および2年次で履修する。健康の保持増進をはかるために必要な基礎的・基本的知識を理解するとともに、自ら健康問題を主体的に追究していく能力を身に付ける。さらに、医療技術の進歩によって生じる新たな健康問題や性をめぐる問題などを取り上げ、個々のライフスタイルやライフステージに応じた望ましい行動の自己選択・自己決定が行える能力を養う。

「体育」では、運動やスポーツに対して、自発的・積極的かつ継続的に取り組む姿勢および協力・責任の精神を養うために、1年次および2年次で運動やスポーツの基礎を学習し、3年次では種目選択制授業を行う。

7. 芸術

本校の芸術科では、実利主義の陰で見失われがちであった教養教育の精神を尊重し、内面的な『感性』、『創造性』、『人間性』の育成を目指し、芸術科教育の本質と基礎実技を重視した授業を行う。

「音楽Ⅰ」と2年次の「音楽表現」では、声楽、器楽、創作や、鑑賞の諸活動を通して、自己表現の可能性を追求することを第一の理念としている。「音楽Ⅱ・Ⅲ」と3年次の「音楽表現」では、生徒の個性を生かした、より高度な技能と表現力を養う。

「美術Ⅰ」では、絵画、デザイン、映像などの制作と鑑賞を通して、視覚的表現の基礎を培う。2年次の「美術表現」では、視覚を科学的に学び、イメージを視覚的に表現する力を養う。

「美術Ⅱ・Ⅲ」と3年次の「美術表現」では、生徒の個性や精神に応じた専門的な視覚的表現力を養い高める。

「書道Ⅰ」では、漢字（楷書、行書、隸書）、仮名（平仮名、変体仮名）、漢字仮名交じりの書を学ぶ。「書道表現」では、「書道Ⅰ」の内容を深めるとともに、草書、篆書を取り扱う。臨書中心の学習を通して、書表現の多様性を学び、各自の感性を生かした創作を試みる。篆刻も実施し、姓名印などを制作する。

8. 外国語（英語）

本校の英語の授業では、教師が英語を使うだけでなく、さまざまな言語活動の中で生徒も英語を使うことが求められる。特に1・2年次においては、教科書の内容に関する説明は英語で行なわれる。また、授業外での洋書の多読や、参考書・単語集・ワークブックなどの自習を通して自律的な学習態度を養う。

1・2年次必修科目の「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」では、4技能を核とした総合的な英語力を身に付ける。また、1年次必修科目の「英語表現Ⅰ」では、コミュニケーションを支える基礎的な文法や語彙を、言語活動をとおして身に付けていく。さらに、2年次必修科目の「英語表現Ⅱ」では、1年次の基礎力を基に、パラグラフ・ライティングや論理的な文章構成を学習し、ライティング力の充実をはかる。

3年次必修科目の「コミュニケーション英語Ⅲ」では、授業展開を工夫し、よりきめ細やかな指導を行う。この科目では、さまざまなジャンルの英文を多読し、特に精読および速読力の充実をはかる。

3年次選択科目の「英語表現Ⅱ」では、1・2年次に学習した「英語表現Ⅰ・Ⅱ」を土台として、目的や場面・状況に応じた文章を書いたり、書いた文章を読んで意見や感想を伝え合ったりするなどして、より発展的な表現力を養う。授業にはALTが加わることもある。

3年次選択科目の「英語会話」では、さまざまなリスニング教材やビデオ教材を活用し、英語のスピーキング、リスニング能力をさらに伸ばす。授業にはALTが加わることもある。

9. 家庭

家庭科は、人の一生を、どの時期も独自の課題と価値を持った大切なものと考え、高校生と

しての現在と未来の生活を創るために必要な知識・技能を学び、自らの生活を政治や経済、科学の視点から捉えなおし、暮らしの実践に生かす教科である。

まず初めに、高校生としての生活の自立を目指す。授業時間の約2分の1を実習や実験に充て、自立した健康的な生活のための知識と技術の修得に励み、生活全体へと視野を広げる。上手下手、好き嫌いにかかわらず、ひとりの人間として生きていける基本技能を身に付ける。

本校では、1年次から3年次の「家庭総合（必修）」と1年次の「生活の科学（必修）」を学習する。食生活全般、高齢者、住生活と保育を扱うほか、本校独自の教材による服飾制作を通じて消費の背景を考察する。さらに、家族・家庭生活、消費経済、生活文化、マナー、調理などを、ジェンダーや福祉、環境問題などに関連させて国際社会への視野を広げつつ学び、進路や将来設計に役立てる。

10. 情報

インターネットやスマートフォンの普及にみられるように、世の中の情報化は急激に進んでいる。近年では、電子書籍やスマートウォッチなど、新たな情報メディア・デバイスも登場し、情報化社会も新たな局面を迎えつつある。このような情報化社会において、情報を入手し効果的に活用するための情報リテラシーや、その基礎となる「情報」にまつわる素養を身に付けることは、高校で学ぶすべての生徒に求められている。

1年次必修科目である「社会と情報」では、情報の収集・吟味・加工・発信といった情報活用に係る各プロセスを学ぶ。情報化社会で主要な役割を果たしているコンピュータを用いた実習や創作活動を主軸とし、情報の処理の仕組みや表現方法を理解し、コンピュータを効果的に活用した問題解決の方法を習得する。

そのうえで、書籍・音声・映像・Webといった各種メディアの特性認識、図書館・データベース等の活用、データの分析・予測や可視化、さまざまな発表の実践など、実社会における多様な情報活用の手段を体得する。

また、最新事例もふまえつつ、情報モラルやセキュリティの意義を認識し、有意義に情報発信する能力を養い、まだ見ぬ情報社会にも適応できる土壌を培う。これらの学習を通して、現代社会と情報のつながりを、ときに客観的、ときに主観的に考察し、日々変化する情報化社会に翻弄されない礎を築く。そして未来の情報社会を主体的に創造できる先導者になることを目指す。

11. 課題研究（学校設定科目）

平成26年～30年のSGH（スーパーグローバルハイスクール）事業の取り組みを継承・発展させ、科学的思考・技能をもとに、自ら課題を見つける力、探究的な学習に主体的・総合的に取り組む姿勢・技能を培うと同時に、さまざまな課題を解決する資質や能力を養うことを目的とする。

1年次に「課題研究基礎（必修2単位）」を置き、観察や実験、データ処理等の、探究的な学習に必要な技能を体験的に身に付ける。2年次の「課題研究Ⅰ（必修3単位）」では、1年次に身に付けた技能を活かして、自らの関心に沿った探究的な学習に取り組む。3年次に「課題研究Ⅱ（選択1単位）」を履修し、2年次の課題研究をさらに深化させることもできる。

12. 総合的な探究（学習）の時間

総合的な探究の時間では、各教科・科目の学びを統合し、社会に有為な女性としての資質・能力を養うことをめざす。

1年次の「総合的な探究の時間（必修1単位）」は、高大連携による「教養基礎」として位置づけ、探究活動における課題設定や望ましいキャリア形成を目的に、「探究入門～問いを立てる～」というテーマで、お茶の水女子大学の全学部の教授陣による特別講義を実施する。

3年次の「総合的な探究の時間（必修1単位）」は、クラスでのディスカッション等の協働的な学びを通して、各教科・科目、課題研究等における学びを統合するとともに、合意形成の能力を育むことをめざす。